

どうねあ

2020/2
No.2

編集・発行/株式会社くうねあ <広島市安佐南区東原 1-4-17> 認定こども園くすの木・くすの木保育園、ベビーシッター事業アンファンスの運営など、子育てしやすい社会のインフラづくりに日々取り組んでいます(このタブロイド紙もその取り組みのひとつです)。「くうねあ」とは子どもにとって最も基本的で大事な「食・寝・遊ぶ」の頭文字をつなげて作った言葉です。

安佐南区西原 MAP



やっぱり 子どもは自由だ

CONTENTS

まちの守り人 Moribito of town

驚くような発想で自由
に行動する子どもたちに
魅了されているご近所のパン
屋さんを訪ねました。



保育士 鷹の爪 Nurse's claw nails

今回は、くすの木の「給食」
の現場にスポットを当て
ました。

Vol.2
キッチンスタッフ



過保護でちょうどいい

株式会社くうねあ代表/堀江宗巨
くすの木トピックス
環境のことをゆる〜く考える「ロハスフェスタ」

f 認定こども園くすの木 / くすの木保育園 戸坂
ameblo.jp くすの木保育園~ホイクノハダザワリ~

<https://qoonea.com/>

イラスト ©yui

葉、は、の、と、ネ

今日は給食コーナー
準備中



いつか
いつか

くすの木では子どもたちと近い場所にキッチンがある。祇園園舎には大きな窓があり、必ず子どもたちが今日のメニューを聞きに来る。



竹嶋 嘉余子さん
給食リーダー

保育士 鷹の爪

NURSE'S CLAW NAILS

給食の 基礎を作った キッチンスタッフ

Vol.2



原 清子さん
給食顧問

食へのこだわりが止まらない。

社名「くうねあ」は“食う・寝る・遊ぶ”が由来。その最初の“食う”=給食には強い思い入れがある。くすの木では認可保育園に決まった2016年に「自分の園で給食をつくる！」とおおえんちようと大園長が宣言。新規保育園では委託か搬入が多い中、自園調理は大きな挑戦だったそうだ。

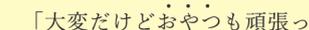
ただ給食調理は、あまりにも奥が深くノリと根性だけではできない。そこで頼み込ん

で給食の基礎を作ってもらったのが原清子さん。元保育士で自然食や保育園給食にも携わり、今でも助っ人や助言に訪れている。

「安心、安全な食材選びは基本で、子どもたちに地元野菜をしっかりと食べて欲しいと話合ったら、スタッフみんなの思いも熱くて止まらないの」。

詳しく聞くと本当に話が止まらなくなった。

↓食材のほんの一例（）=産地



「大変だけどおやつも頑張ってる」と教えてくれたのは給食リーダーの竹嶋嘉余子さん。

小さい子は一日三回だけでは必要な栄養量が摂れないので、おやつは第四の食事と位置付ける。「肉まん、おまんじゅう、食パンピザ、おむすびにお好み焼き…長野の郷土料理おやきも、すべて手作りです」。人気ナンバーワンのフライドポテトも手を抜かない。

食器の素材にもこだわる。お皿は陶器、端が垂直に立ち上がっているのでスプーンが返しやすい。もちろんスプーンは脱プラスチックだ。

コップを強化ガラス製にしたのは、「透明なので口の動きが見え、残量もすぐわかるから」と竹嶋さん。眼差しはつねに子どもたちに注がれている。

紙面の都合で今回は割愛するしかないが、まだまだ続いた話はまたの機会に譲りたい。

【米】土づくりからはじめた低農薬のお米。精米したてを毎月大園長が車で取りに行く。(三次市)

【卵】自家配合した餌で平飼いされた国産鶏の有精卵。(東広島市福富町) ※日本の採卵鶏のなんと95%は外国鶏だ

【野菜】農業や化学肥料を使わない有機農家の野菜。旬な野菜を配達してもらおう。(東広島市志和町)



【醤油】合成添加物ゼロ、じっくり時間をかけた古式製法による天然醸造の醤油。(島根県仁多郡奥出雲町)①

【塩】国産自然海塩。加熱処理を一切せず天日と手揉みで作られるミネラル豊富な天日塩。(高知県幡多郡黒潮町)②



ユニバーサルプレートと呼ばれる陶器のお皿。

(右上) 割れても破片で怪我をしにくい強化ガラスコップ。
(右下) 柄の長い介助スプーンと園児用。



まちの守り人 Moribito of town



育てられているのは子どもだけじゃない。

【安佐南区西原】

「和みのぼんやさん 小麦畑」店主 浜本 歩さん

認定こども園くすの木西原園舎から200mと離れていないお店には、お迎えに来た保護者が園児と一緒によく買いに来てくれている。

お店に入って印象的なのは壁に貼られた子どもたちの絵。若い店主、浜本さんに聞くと「最初にいきなり手渡されたのがこの絵です」。当時2歳のくすの木の園児、りんちゃんの絵。

「もらった時、なんて自由なんだと驚きました」パンの絵でも描いてきたのかなと見

るとママの顔だったのだ。「大人の常識や想像を軽々と超えるその発想と行動に」。

りんちゃんの絵を壁に貼ると他の園児たちも持つてくるようになり、今でも自由な絵のプレゼントは続いていて、次の貼り替えを待って大切に保管されている。

浜本さんは呉市中通にもお店を持つ。イベント出店が縁で、空いているテナントを使ってほしいとビルのオーナーに誘われたのだ。「威張れないけど、計画たてずに商

売してるんです」。その時の縁や地域の雰囲気引き込まれるのだとか。

「こんちわっ」と青年が来店して親しげに話し出した。聞くと近くの大学生で

この春卒業だとか。これまでも何度か来てはパン作りのノウハウを伝授してもらっていたらしい。今日が最後の授業だ。

「このお店も地域に育てられてますから」と照れる浜本さんを見て、ああこの人も自由なんだと思った。



お店に入ればすぐにハイタッチ。残ってればくれるパンの耳は、園児たちの大のお気に入り。



園児たちの絵は時々貼り替えて模様替えをしているが、最初りんちゃんの絵だけは常設展示されている。



(手前) 小学生の社会見学の壁新聞。(奥) オリジナルの誕生日パンのお礼に持ってきてくれた誕生日会の写真。



小麦粉・塩・酵母だけで作った食パン。アレルギー体質の園児のためにくすの木では定期的に購入している。



たまたま出会った近くの大学生。(右) 卒業後は就職のため広島を離れるが、浜本さんはパン作りの恩師になる。



過保護で ちょうどいい

「子どもへのまなざし」の著者佐々木正美さんは「幼い子どもの育児というのは、本当に過保護なくらいで、ちょうどいいと思っています。そう信じています。ところが過剰干渉だと子どもをだめにするのです。」と、過保護と過干渉の違いについて述べて、過保護が子どもをダメにするとは誤解だご指摘されています。

それでは、過保護と過干渉の違いはなんでしょうか。

過保護は子どもが望んだことを望んだとおりにやってあげて、やりすぎることです。一方、過干渉は子どもが望んでもいない

ことを、やらせすぎることです。

「抱っこ」と言ったときに抱っこしてもらえた子どもの方が、安心してしっかり歩くようになり、精神的に自立していきます。抱っこに限らず、自分が全面的に受容されている、ありのままの自分を認めてもらえている。という気持ちを子どもたちには持ってもらうことが大切です。

過保護と過干渉の違いに注意しながら、まずは小さな子ども達の「～したい」「～してもらいたい」という気持ちをたくさん満たすことから始めたいですね。

株式会社くうねあ代表/堀江宗巨



◆子どもへのまなざし
子どもにとっての乳幼児期は、人間の基礎をつくるもっとも重要な時期です。児童精神科医の著者が、臨床経験をふまえて乳幼児期の育児の大切さを語る、育児に関わる人の必読書です。

「子どもへのまなざし」
佐々木正美 著
山脇百合子 画
福音館書店



ロハス フェスタ

GO GREEN!
～循環する地球～

「環境にいいこと。無理せず、楽しんじゃお。」

という、ゆる～い親子フェスタ。



昨秋、認定こども園くすの木東原園舎で開催されたLOHAS FESTA、テーマは「循環する地球」。テーマに地球とつくど何だか身構えてしまうが、子どもたちの歌や劇の発表とかではなく、保育士の歌声が聞こえたかと思うと、撮影会も始まりでした。おしゃれな珈琲ショップがあったり、あちこちで親子が楽しそうに何か作ってる。...なんだこのゆるさ?でも居心地がいいのは何故?。



LOHAS="Lifestyles Of Health And Sustainability" (健康で持続可能な生活様式)の頭文字をとった略語。くすの木では「元気で自然が好きなんだな」くらいにゆるく考えてます。

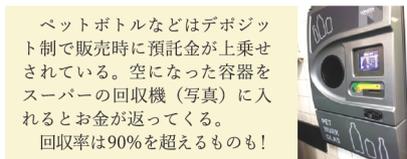
きっかけはスウェーデンの 環境対策を知った衝撃!

ロハスフェスタ開催のきっかけは、くすの木東原園舎さかいくみ園長のストックホルムでの実体験。見学した保育園ではプラスチック製品が見当たらず、自然素材があふれていた。

街に出れば、バス、電車などはすべてバイオマス燃料で走っている。家庭ゴミの99%が再利用されていて電力にも転換している。ゴミが足りずに輸入までしているのだそう。もう見聞きするすべてが衝撃的でぼろぼろと目からうろこがこぼれたのだとか。



写真はストックホルムの就学前学校(日本の幼稚園や保育園)。修繕し繰り返し使えるものが多く、化学物質の入った塗料を避け、輸送エネルギーを考慮して資材は遠方から調達しないなど環境意識の高さによって星の数でランク付けされている。保護者もそれを参考に園を選んでいるらしい。



ペットボトルなどはデポジット制で販売時に預託金が増えられている。空になった容器をスーパーの回収機(写真)に入れるとお金が返ってくる。回収率は90%を超えるものも!



住宅地には3種類に分別して入れるゴミシューターがある(写真)。ゴミは90秒ごとにバキュームされ地下のパイプを通って収集施設でバイオガスを回収し家庭用の燃料にもなる。ゴミ収集車も走らないので排気ガスの削減にもなっている。古着などを置ける場所もあり、市が収集しリサイクル・リユースに積極的に介入している。

この子たちが成人する 15年後はどうなってる?

今から15年前、日本では誰もスマホを持ってなかったし、ほとんどの家庭のテレビがブラウン管だった。常識は恐ろしいスピードで移り変わる。それではこれから15年後、この子たちの暮らす環境はどうだろう。日本の気候は? 海洋汚染は?

「深刻だけど、ただ声高に訴えるのではなく、無理せず、楽しくエコを考えるのがくすの木流」とさかい園長。

「でも15年後この子たちへ言い訳はできない。自分事として考え、今出来ることを目の前の仲間とやってみる」。

循環する地球、持続可能な社会。本当に小さな小さな歩幅だけど、ロハスフェスタはその未来への一歩なんだろう。



園ではなるべく電気を消して自然の光を入れ、天気や日の長さの変化を子どもたちと話している。「今は無理せず、楽しく素敵なことと語りかけてます」。大人になった時に環境のことを自然に言えたり考えたりできるようにと願っているからだ。